

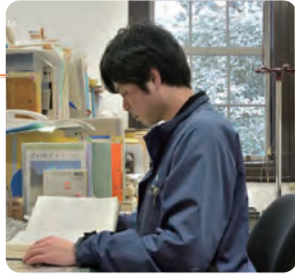


学芸員が思いのままにつづる、ミュージアムのこと、日々の仕事のこと。展示に直接携わる学芸員の言葉の中から、ミュージアムをもっと楽しむヒントを見つけてください。

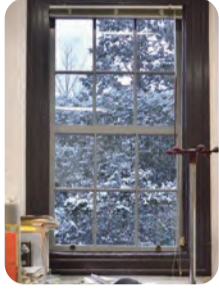
CHAPTER
11

仙台市歴史民俗資料館

わたなべなおと
学芸員 渡邊 直登さん



仙台市歴史民俗資料館の建物は、明治7(1874)年に建てられた宮城県内最古の洋風木造建築で、主に明治時代から現代にかけての歴史・民俗資料を展示しています。普段は資料の収集・整理や企画展等の企画・実施、イベントや体験講座などの普及活動などのほか、これらに関する調査研究(私の専門は民俗学ですので、主に民俗学の観点から)を行っています。当館は榴岡公園内に位置していますが、天気の良い日には大勢の親子連れやグループ、犬の散歩をする人々などで賑わいます。また、周囲はさまざまな公園の木々に囲まれ、四季の移ろいを感じることができます。明治時代初期の建築である当館建物の特徴のひとつにガラス入り上げ下げ窓が挙げられますが、杉材による焦茶色の厚めの窓枠に、さらに杉材の鼠色の建具にガラスが嵌めこまれた窓はとてもレトロでやわらかい印象で、疲れたときにはこの上げ下げ窓から季節ごとに変化する公園内の景色を眺めます。また、カメラが趣味の私にとっては、イベント等の記録写真や、館のSNSや広報物に掲載する写真を撮影することもひと休みになっています。自身が撮影した写真が広報物に掲載されたり、SNS上で反応があると嬉しく思うと同時に、その写真をきっかけに来館されるお客様や館に関心を持つ方が増えればと思っています。



SMMAとは

知的情報資源である仙台・宮城地域のさまざまな博物館が協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを集積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指します。

WEBサイト 見験楽学

SMMA参加館の学芸員をはじめ現場スタッフによるとっておきの情報や、地域のミュージアムならではの情報をお伝えします。地元のみならず、旅行で訪れた方々にもお役に立ち、楽しみながら発見や体験をしていただけるウェブサイトです。



発行・問い合わせ先: 仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) 事務局 仙台市青葉区春日町2-1(せんだいメディアテーク内)
tel: 022-713-4483 fax: 022-713-4482 email: office@smt.city.sendai.jp website: https://www.smma.jp
編集/SMMA事務局 デザイン/ANTWORKS イラスト/よしみさこ 発行日/2021年2月26日 掲載した記事・情報は発行日の段階のものです。

この紙はリサイクルできます

2021 春号 旬の見験楽学便



ミュージアム de ブレイクタイム

SPOT 仙台うみの杜水族館

生きものの魅力を伝えるだけでなく、海と暮らす人々とのかかわりを展示に取り入れた「地域とともに作りあげる」ことを意識した新しいコンセプトの水族館です。



大水槽「いのちきらめくうみ」では、2万5千尾のマイワシたちが躍動感あふれる群れの泳ぎで魅了



イルカ、アシカ、バードが共演する躍動感に満ちたパフォーマンス

☎ 仙台市宮城野区中野4-6 ☎ 022-355-2222 図 9:00-17:30(入館は閉館の30分前まで) ※季節によって変動あり 年中無休
大人2200円、中・高校生 1600円、小学生 1100円、幼児 600円、シニア 1600円

WAKUWAKU OCEAN フードコート

世界三大漁場である三陸の海など、食を通じてその豊かさを感じられるメニューがいっぱい。



フカヒレ拉麺
1250円(税込)
三陸の漁業を彷彿とさせるフカヒレが贅沢に入った一皿。東北の海の豊かさを感じることができる。



ドルフィンカレー
830円(税込)
イルカのパフォーマンスの瞬間を閉じ込めたようなかわいらしい見た目に反して、しっかりとスパイスの効いたピリ辛カレー。

ミュージアムショップ umimori shop



モーリーぬいぐるみ
L 3800円 S 1223円 寝そべりS 1650円(すべて税込)
水族館のキャラクター、ペンギンのモーリーのぬいぐるみは人気のお土産。モーリーの特技はフィギュアスケート、好きな食べ物は笹かまぼこと長なす漬け。



モーリー サステイナブルバック
550円(税込)
ペンギンのモーリーと海の生きものたちのポップなグラフィックが楽しいエコバックは、日常使いに大活躍しそう。



ダイオウゴクムシ スイートポテト
1350円(税込)
箱をあけてびっくり仰天、ダイオウゴクムシの形をした大迫力のスイートポテトは、ユーモアもボリュームもたっぷり。



シリーズ 矢部 長克 (1878-1969)

明治11(1878)年東京生まれ。1901年東京帝国大学地質学科卒業。1908年から1912年までドイツ、オーストリア、アメリカへ留学。1911年から1940年まで東北帝国大学教授。1953年「糸魚川-静岡地質構造線提唱等の地質学・古生物学研究」の功績により文化勲章を受賞。



SMMA参加館ゆかりの人物にせまります。人を知って、收藏品をもっと身近に、もっと楽しく。

地質学・古生物学研究の先駆け - 矢部長克が実現した理想 -

留学中の1911年11月に東北帝国大学理科大学地質学科の初代教授に任命された矢部は、留学中の知見や経験を生かして、黎明期の日本の地質学から一歩ずつ近代的地質学へと発展させた。開設当初、ドイツやフランスの標本会社から世界中の化石や岩石標本を、日本の標本会社から動物骨格標本などを購入して標本室を設け、また当時最先端のヨーロッパの文献資料を取り寄せて資料室を設け、研究環境を整備しました。矢部とその弟子たちにより、日本中の地質の調査、地層対比および古生物の研究が精力的に行われ、日本の地質学全体が大きく進歩しました。古生物の分野ではとくにサンゴ、大型有孔虫、アンモナイトの成果が顕著です。東北大学は古生物学の一大研究拠点として世界に知られることとなりました。



ミクロネシア・チュウ諸島のサンゴ礁での調査風景(1937年) 矢部にちなんで名付けられた化石



① Yabeina globosa ヤベイナ (Deprat 1914による) ベルム紀を代表するフズリナ化石、岐阜県産、登録番号2



② Yabeiceras orientale ヤベイケラス (Tokunaga and Shimizu 1926による) 白亜紀のアンモナイト、北海道産、登録番号35342



③ Sinomegaceras yabei ヤベオツノシカ (Shikama 1938による) 更新世の絶滅した大型のシカ、栃木県産、登録番号61670

未来永劫受け継がれる標本たち

矢部の回想記には「日本で標準標本に番号を打って保存する様にしたのは私が初めて仙台でやった」とあります。番号1番から始まった標本登録のシステムは脈々と受け継がれており、現在は11万台に至っています。東北大学総合学術博物館に展示されている標本の番号にも研究の歴史が垣間みられます。

ここでもっと知る!

東北大学総合学術博物館(理学部自然史標本館)
☎ 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 ☎ 022-795-6767
図 10:00-16:00
☎ 月曜(祝日の場合は翌平日)、お盆、年末年始ほか
☎ 大人150円、小・中学生80円

東日本大震災から10年、今は新型コロナウイルスに翻弄されるなか、誰もすこやかな暮らしを願う気持ちがより強まっていることでしょう。大きな災いから逃れることだけでなく、小さな幸せの成就にいたるまで、人々は今も昔も身近なものに願いを託してきました。その一端をミュージアムで見つけませんか？

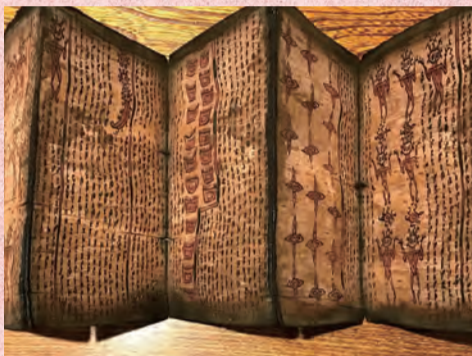


疫病退散できるかも？ 摩訶不思議な医学書

染色家・芹沢銈介のコレクションに、解説したくなるような不思議な本があります。インドネシア・スマトラ島のバタク民族に伝わる医学書「ブスタハ」と呼ばれるものです。これは、19世紀初頭、呪術師が保有していたものらしく、占いや病気治療などの秘策が書き留められているのだとか。素材は、なんと木の皮をなめして作られ、折本仕立てになっています。バタク文字とともに、動物や虫、人と思われる絵がユニークです。この医学書で、現代も疫病退散できたらいいのに！



折本は厚みが8cm、広げると2m以上もある



トバ・バタク民族(スマトラ島)が用いていたバタク文字

こちらもどうぞ 芹沢銈介美術工芸館公式ウェブサイトの「Web展示室」では、「芹沢銈介があつめた仮面—MASK—」や「東北藍めぐり—染織とやきもの—」といったテーマで所蔵品を観ることができます。



東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館 仙台市青葉区国見1-8-1 ☎022-717-3318 当面の間、臨時休館

文学館で ぼのぼの神社発見！

文学館には、哲学とギャグが融合した漫画『ぼのぼの』(竹書房)で知られる在仙の漫画家、いがらしみきおさんのオフィスに飾られていた「ぼのぼの神社」があります。「手先が器用だった2代目のアシスタントがヒマそうだったので作らせた神社」(いがらしさん談)なのだとか。手を合わせて、ラッコのキャラクターぼのぼのに心の内をこっそり明かしてみは？



常設展示室にあるぼのぼの神社

体から虫を逃すな！ 東北の民話ホラー

いがらしみきおさんは、「庚申信仰(こうしんしんこう)」を題材にした漫画『こうずんさん』(あきは詩書工房/2019年)も描いています。60日に一度巡ってくる庚申(かのえさる)の日に、いつも人の体内で悪事を監視している三尸(さんし)の虫が、体外に出て、天帝に宿主の悪行を告げに行き、宿主の寿命を縮めると言い伝えられており、それを防ぐために徹夜で酒宴をひらくというもの。少しずつ変化しながらも同じ話が繰り返され、読み進めるうちに深い闇に迷いこんだような気分になります。



いがらしみきおコーナーに展示されている「こうずんさん」。漫画家生活40周年記念の限定本として出版されました

こちらもどうぞ 『こうずんさん』は、せんだいメディアテークで2015年に開催された展覧会「物語りのかたち—現在に映し出す、あつたこと」にて民話をテーマとしたインスタレーションのために書き下ろされた作品です。展示記録をメディアテークの公式YouTubeで見ることができます。



仙台文学館 仙台市青葉区北根2-7-1 ☎022-271-3020 9:00-17:00(展示室入室は16:30まで) 月曜(休日は開館)、休日の翌日(休日は開館)、1月-11月の第4木曜(休日は開館) 一般460円、高校生230円、小・中学生110円

迫力ある姿で 人々を守る鬼神

仙台地方では昔から、ヤマセによる冷害で起きる飢饉をはじめ、地震や洪水、火災、疫病などの天災にたびたび悩まされてきました。仙台市博物館では、江戸時代中期に仙台藩の絵画制作も担った狩野派の幕府御用絵師が描いた鍾馗図(しょうぎず)を見ることができます。鍾馗は唐の玄宗皇帝の夢に現れて病魔をはらったという伝説があり、疫病をはらう鬼神とされています。邪気をはらうにふさわしい、眼を見開いた迫力ある姿が印象的です。



鍾馗図 (狩野典信 筆/仙台市博物館所蔵/3月21日(日)まで展示中)

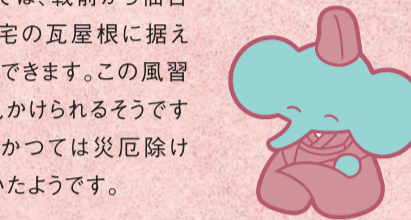


屋根上の鍾馗像 (仙台市歴史民俗資料館所蔵)

また、仙台市歴史民俗資料館では、戦前から仙台市青葉区広瀬町の店舗兼住宅の瓦屋根に据えられていた鍾馗像を見ることができます。この風習は京都など関西地方ではよく見かけられるようですが、東北地方では珍しいもの。かつては災厄除けの願いが家の作りにも現れていたようです。

波乗りウサギの瓦

屋根の上には凛々しい姿の像だけではなく、こんなにかわいらしい意匠の瓦も。波に乗るウサギの意匠は江戸時代から全国的に広く知られ、水に係るものを置いて火除けのまじないとされていました。水面にキラキラと映る月明かりを波間にウサギが跳ねる姿に見立てて作られたものようで、月にはウサギが住むという仏教説話が根底にあるようです。



波乗りウサギの瓦 (仙台市歴史民俗資料館所蔵)

仙台市博物館

仙台市青葉区川内26 ☎022-225-3074 9:00-16:45(入館は16:15まで) 月曜(休日は開館)、休日の翌日(休日は開館) 一般・大学生460円、高校生230円、小・中学生110円 ※2月13日の地震被害による施設設備の復旧のため当面は臨時休館(2月26日時点)

仙台市歴史民俗資料館

仙台市宮城野区五輪1-3-7 ☎022-295-3956 9:00-16:45(入館は16:15まで) 月曜(休日は開館)、休日の翌日(休日は開館)、第4木曜 一般・大学生240円、高校生180円、小・中学生120円 「展覧会」特別展「仙台の災害—天災は忘れたころに—」4月11日(日)まで

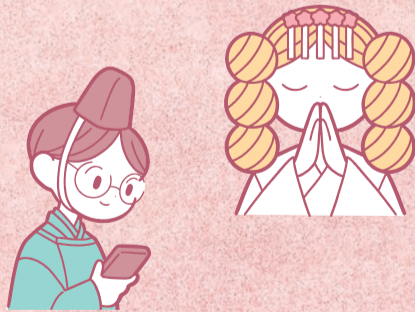
井戸を埋める時の おまじない

震災から10年、仙台市の沿岸部の荒浜では、住宅の外壁や基礎が取り払われ、井戸だけがぼつりと姿をあらわにして、そこで生活が営まれていたことを物語っています。井戸を閉じる時には「梅」の木の枝と「葦(よし)」を井戸の中に落とし、「埋めてよし」とする風習があったといいます。せんだい3.11メモリアル交流館では、仙台市東部や貞山運河沿いを中心に30年に渡って街並みや風景を写真で記録し続けてきた、写真家で建築家の高橋親夫さんの写真や資料を手にとることができます。



高橋さんが撮影した荒浜に残った井戸。跡地活用事業のための工事で更地化が進んでいる今、この姿が見られるのもあと少しかもしれません

「梅で葦」を語った祖母は蒲生生まれで、そちらの文化かもしれません。もちろん普段から井戸を不浄に扱うことは罰が当たると言われていましたし、井戸の中にもものを投げ入れることなどんでもないことでした。正月は井戸の神様にお幣束を立て餅やご飯をあげ、冷蔵庫のない時代は井戸の中でスイカやキュウリを冷やしていました。」(高橋さん談)



こちらもどうぞ

せんだいメディアテークの「3がつ11にちをわすれないためセンター」のウェブサイト、高橋さんが記録した荒浜の生活の跡が紹介されています。



せんだい3.11メモリアル交流館で販売中の「海辺のメモリアルソーダ」に付属の冊子「海辺のメモリアル帖 #5」に高橋さんの活動や想いが描かれています。



せんだい3.11メモリアル交流館 仙台市若林区荒井字番形85-4 ☎022-390-9022 10:00-17:00 月曜(休日は開館)、祝日の翌日(休日は開館) 見学無料

SMMA クロスイベント「特集 東日本大震災10年—仙台の災害とミュージアム」 2月11日(木)~4月11日(日) 仙台市博物館 仙台市歴史民俗資料館 せんだい3.11メモリアル交流館 各館にて開催

東日本大震災から10年となることをうけて、震災後の各館のこれまでの取り組みや、現在開催している災害に関する展示を紹介します。